

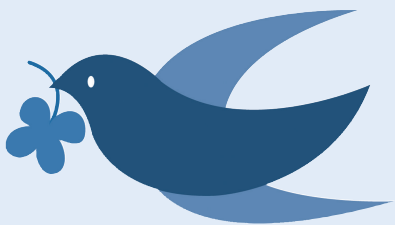
# Peace From Nagasaki 平和をなくす核兵器とは

1945（昭和20）年8月9日、午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾（原爆）により大きな被害を受け、多くの人が亡くなりました。

今年是被爆から70年を迎える節目の年です。これまで、被爆者をはじめとする長崎の市民は、「長崎を最後の被爆地に」という合言葉のもと、世界に向かって核兵器廃絶を訴えてきました。しかし、残念ながら世界にはまだ数多くの核兵器が存在しています。

なぜ、長崎の「当たり前」である「核兵器のない世界」が、世界の「当たり前」にならないのでしょうか？

ここでは、核兵器をとりまく世界の状況を踏まえるとともに、核兵器をなくすためにどうしたらよいか、平和を「つくる」取り組みについて紹介します。



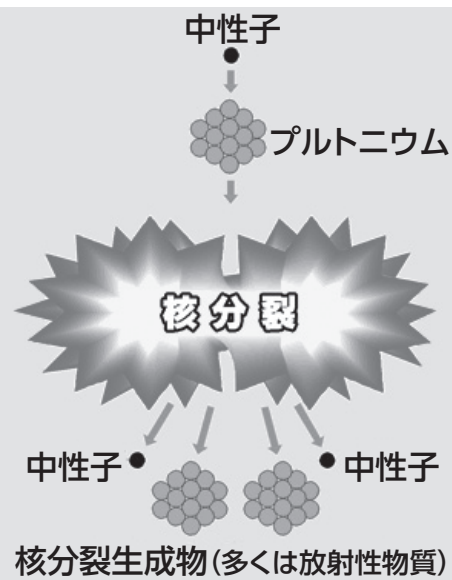
【問い合わせ】平和推進課

☎844・9923

## 1 はじめに…核兵器とは

### 核兵器の仕組み

核兵器とは、核反応が起こるときエネルギーを利用した原爆や水爆（水素爆弾）などの兵器のことです。原爆は、ウランやプルトニウムの原子核に中性子を衝突させ核分裂エネルギーを放出させます。この核分裂と同時に新たな中性子が飛び出し、連続して核分裂を起こすことで、強大な破壊力を生み出します。



核分裂の原理

### 核兵器の特性

核兵器は通常の爆弾とは比較にならないほど強大な破壊力を持つ兵器です。

長崎に落とされた原爆は、約3000℃～4000℃にも達する熱線、台風の何倍もの強さの爆風、さらに放射線により、大きな被害をもたらしました。

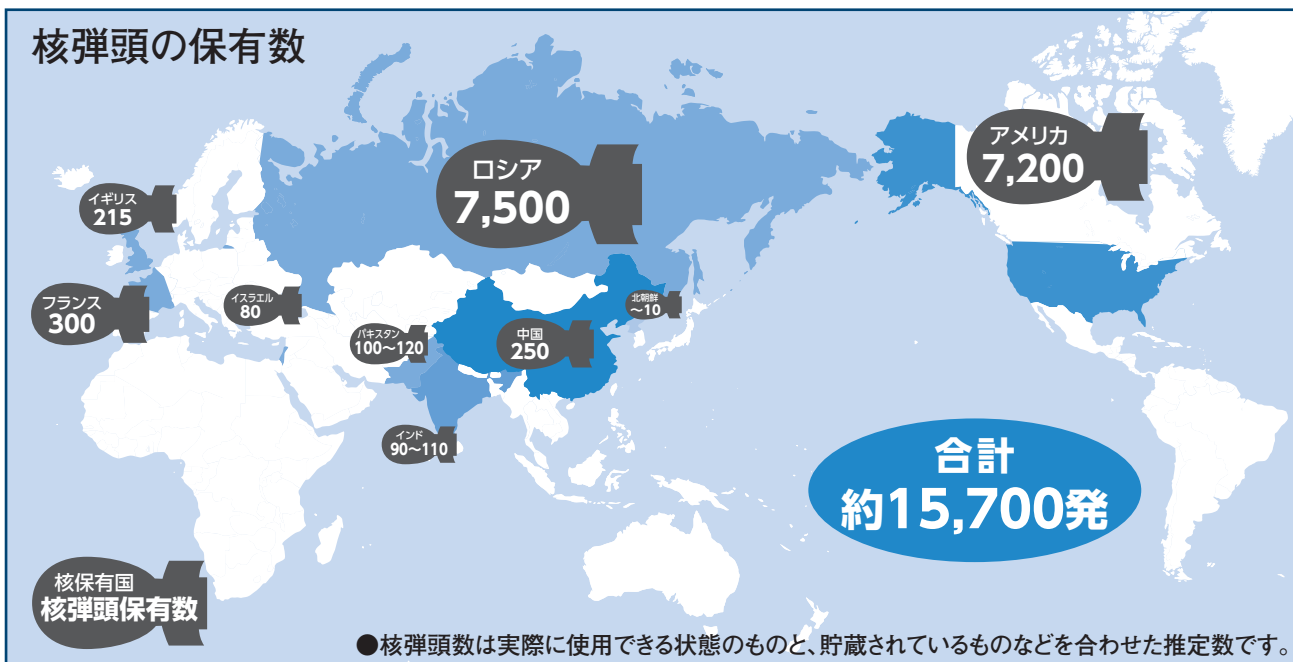


長崎型原爆の模型  
(ファットマン)

核兵器が他の爆弾と最も異なる点は、爆発したときに大量の放射線を発生させることです。放射線は人の身体に入り、いろいろな細胞を壊します。身体に受けた放射線の量によって傷つけられる程度は異なりますが、一見無傷であっても放射線を受けたために亡くなった人たちがたくさんいます。また、生き延びた人でも時がたつにつれて、さまざまな病気（白血病やがんなど）を引き起こすことがあります。

# 2 世界の核兵器の現状

## 核弾頭の保有数



●核弾頭数は実際に使用できる状態のもの、貯蔵されているものなどを合わせた推定数です。

出典 長崎大学核兵器廃絶研究センター(レクナ)の核弾頭データをもとに作成

### 世界には核兵器がどれくらいあるの？

現在、世界中には核兵器として使用できる核弾頭は約1万5千7百発といわれています。しかし、核兵器を持つ国は、核兵器をどれくらい持っているか、をできるだけ他の国に知られないようにしているの、その実態は正確には分かっていません。

### どんな国が核兵器を持つているの？

第2次世界大戦末期の1945年にアメリカが初めて核兵器を作ってから1964(昭和39)年までの間に、旧ソ連(現ロシア)、イギリス、フランス、中国が相次いで核兵器を持つようになりました。その後、これ以上核兵器を持つ国が増えないように1968(昭和43)年に多くの国が参加して「核不拡散条約(NPT)」が結ばれ、現在、ほとんどの国が加盟しています。

しかし、核実験を実施したインド、パキスタンや、事実上の核兵器保有国といわれているイスラエルは、NPTに加盟していません。また、北朝鮮は一方的に脱退を表明し、2006(平成18)年に最初の核実験を実施して以来、これまでに3度実施しています。

### なぜ核兵器はなくならないの？

核兵器保有国は、他の核兵器保有国に対抗したり、核兵器保有国から自国を防衛したりすることを、核兵器を持つ理由としています。中には、国際的な発言力や地位を築くことを目的としている国もあります。

### 核兵器保有国などの主張



また、核兵器を持たない国の中には、他の核兵器保有国に守ってもらうことで自国の安全を守ろうと考えている国もあります。実は、日本もそうした核兵器の抑止力(※)に頼っている国のひとつなのです。

核兵器を持つ国々と核兵器の抑止力に頼る国々のこうした思惑のため、核兵器がなかなか無くなる状況となっています。

(※)相手国が攻撃してきた場合、核兵器で反撃するという姿勢を見せることによって、相手国の攻撃を思いとどまらせようとすること。

特集

市政

長崎市民

「ご意見」  
ブレゼント

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

# 3 核軍縮をめぐる動き

第2次世界大戦終了後、核兵器の研究・開発が進められた一方、長崎や広島での原爆による被害の状況が広く知られるようになるにつれて、核兵器をなくそうとの訴えが高まってきました。

こうした中、核兵器廃絶への新たな一歩を進めるための新しい論点や、さまざまなアイデアや提案が生まれています。

## 「核兵器の非人道性」に関する議論

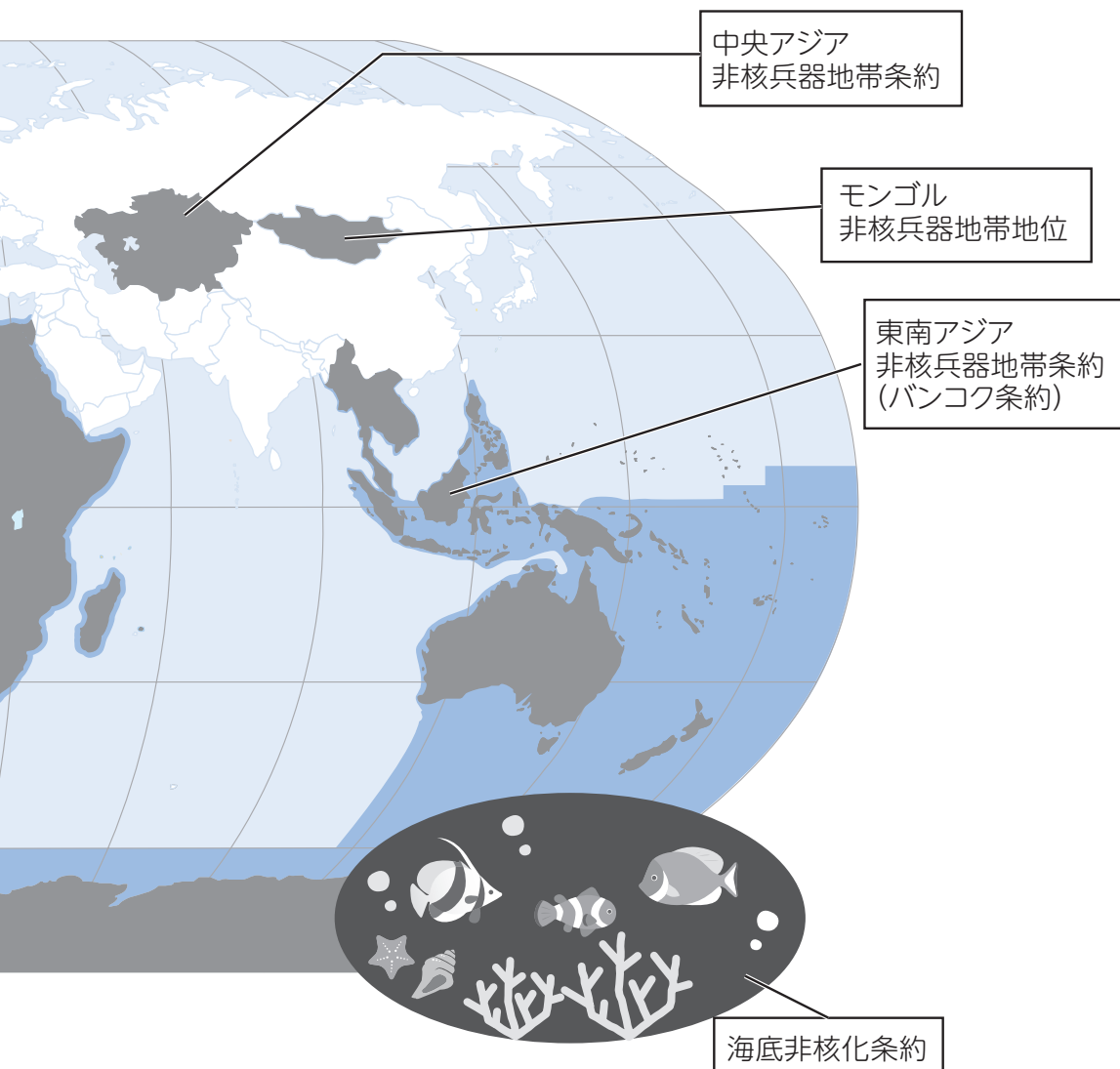
2013（平成25）年から2014（平成26）年にかけて、核兵器の使用がもたらす影響について各国の専門家が科学的な視点から議論を行う「核兵器の非人道性に関する国際会議」が、合計3回開催されました。

この会議では、人体や経済、環境、気候変動など、さまざまな視点から、核兵器がいかに非人道的な兵器であるかが明らかになりました。さらに、もし核戦争になれば、傷ついた人々を助けることもできず、気候変動で食料がなくなり、**世界の20億人以上が飢餓状態に陥る**という恐ろべき予測が発表されました。

2014年12月にオーストリアのウィーンで開催された第3回の会議には、核兵器保有国であるアメリカ、イギリスが初めて参加するなど約160カ国が参加しました。この会議での議論の中で、「**核兵器爆発の危険性を回避するための唯一の保証は核兵器の完全廃棄にほかならない**」との指摘がなされました。

核兵器保有国も無視できなくなってきた「核兵器の非人道性」という視点から、核兵器廃絶をどのように進めていくかが、今後重要になっていきます。

## 兵器地帯



## 核兵器禁止条約 ―核兵器の全廃と根絶に向けた法的枠組み―

核兵器の開発、実験、製造、配備、使用を全て禁止して、また、現在、保有している核兵器を解体して使えなくする条約です。

国際司法裁判所が1996(平成8)年に「核兵器の使用・威嚇は一般的に国際法に違反する」という勧告的意見を出したことがきっかけとなり、核兵器禁止条約の検討が本格的に始まりました。

2008(平成20)年には、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長も、核軍縮に関する提言を発表して、核兵器禁止条約を検討するよう加盟各国に求めています。現在、国連加盟国の多くの国々が条約実現に向けた早期交渉に前向きな姿勢を見せています。

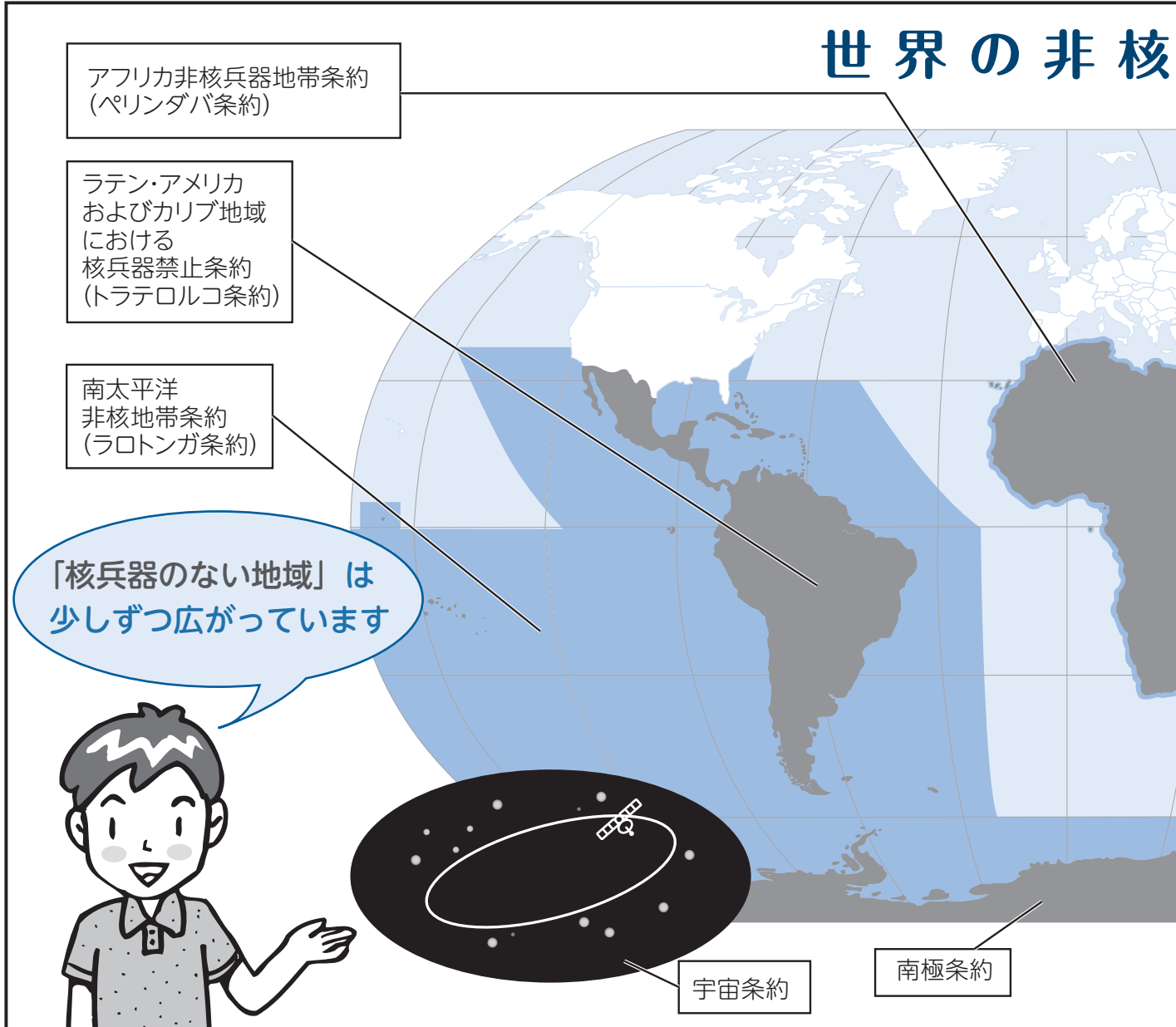
## 非核兵器地帯 ―地球上の約半分が「核兵器のない地域」に―

非核兵器地帯とは、ある区域内の国々が、条約を結び、核兵器の製造、実験、取得、保有などをしないと約束するものです。非核兵器地帯の条約は、通常、地帯に含まれる国に対して核兵器を使用しないことを核兵器保有国に約束させる内容となっています。

地球の南半球は、ラテン・アメリカ核兵器禁止条約などによって、すでに陸地のほとんどが非核化されています。北半球でもモンゴルの「非核地位」が国連で認められたほか、かつて旧ソ連の核実験場があった中央アジアも非核兵器地帯となっています(下図参照)。

こうしたアイデアや提案などについてさまざまな国際会議が開催され、成果も得られてきました。

しかしながら、今年4月～5月に開催された「核不拡散条約(NPT)再検討会議」が、核兵器をすぐに禁止したいという国々と核軍縮を段階的に進めたいという核兵器保有国との間で意見が合わず閉幕するなど、核兵器廃絶の動きはなかなか進まない状況が続いています。



「核兵器のない地域」は  
少しずつ広がっています



宇宙条約

南極条約



# 4 「核兵器のない世界」の実現に向けて

核兵器をめぐる国際世論や、被爆地長崎が核兵器廃絶に果たす役割などについて、長崎大学核兵器廃絶研究センター（レクナ）准教授の中村桂子さんに話を伺いました。



世界の中で、核兵器に関する考え方の劇的な転換（パラダイムシフト）が始まっています。

## 北東アジアを非核兵器地帯に

「核兵器のない世界」の実現に向けて、レクナでは、今年3月に「北東アジア非核兵器地帯設立への包括的アプローチ」という提言を発表しました。

「北東アジア非核兵器地帯」とは、日本と韓国と北朝鮮を「非核兵器地帯」にしようとするものです。非核兵器地帯が条約として成立するためには、3カ国に核兵器が存在せず、近隣の核保有国（アメリカ、ロシア、中国）が、3カ国を核兵器で攻撃しないと約束することが重要です。



「北東アジア非核兵器地帯」のイメージ

現在、北東アジアでは、北朝鮮の核兵器開発が引き金となって国際関係が緊張状態になっています。しかし、多国間協議により、北朝鮮の非核化だけでなく、「停戦状態の朝鮮戦争の終結」や「エネルギー支援」など、さまざまな懸案について同時並行で問題解決を目指すことで、非核兵器地帯の実現は可能だと考えています。

特に、非核保有国である日本と韓国には、北東アジア非核兵器地帯の設立に向けて主導的な役割を果たしてほしいと考えています。

## 「核兵器をなくす」という選択を

今年のNPT再検討会議は残念ながら核軍縮に対する各国の合意がまま閉幕してしまいましたが、「核兵器はどっせ無くならない」とこのまま諦めてしまってもいいのでしょうか？

唯一の戦争被爆国である日本は、ただ現状の変化を待つのではなく、現状を変えるため、核兵器の非人道性とともに、核兵器禁止条約など核兵器の非合法化に取り組み必要があると考えています。

そのためには、核兵器の恐ろしさを知る長崎の市民が、日本政府に対して「核兵器の禁止に向けて先頭に立つてほしい」とのメッセージを伝え続けることが重要です。

市民一人ひとりが「核兵器をなくす」という選択をすることが、国や世界を動かし、「核兵器のない世界」の実現につながります。

## 「国家」の安全保障から 「人間」の安全保障へ

これまで、核兵器をめぐる議論は、「核兵器が国の安全を守る」「核兵器は役に立つ兵器」といった、「国家」の安全保障の面から語られることが多く、核兵器廃絶は遠い未来の話とされてきました。

しかし、核兵器の非人道的性格について初めて触れた2010（平成22）年のNPT再検討会議以降、そうした認識が大きく変わりつつあります。世界の多くの国々で「核兵器を持つことは恥」「核兵器では人々の安全は守れない」といった「人間」の安全保障の考え方が広がってきました。

# 5 長崎から平和を「つくる」

「核兵器のない世界」への道のりは険しいものがありますが、核兵器廃絶の国際世論は高まっています。次の時代をつくるために、私たち長崎市民には、何ができるのでしょうか？

## 市民社会の一員として

核兵器の恐ろしさを知る私たち長崎市民には、核兵器がどれほど非人道的な結果をもたらすのかについて、「長崎を最後の被爆地に」との思いで活動されてきた被爆者の願いを受け継いで、国際社会に訴えていく責務があります。

核兵器禁止条約や非核兵器地帯など、核兵器をなくすための具体的なアイデアや提案に対して、賛同する国々も増えています。

長崎はこれからも市民社会の一員として、仲間を増やし、NGO（非政府組織）や目標を同じくする国々や国連と力を合わせて「核兵器のない世界」の実現に向けて行動し続けます。

## 未来のために平和の種をまく

被爆の体験は共有できませんが「核兵器は人類に必要だ」という思いは、世界中で、また、次の世代とも共有できます。

市民の皆さん一人ひとりも、改めて平和について考えてみませんか。そして「チーム長崎」の一員として、**平和への思いを自分なりのスタイルで形にしてみたいか**がでしょうか。

平和は守るだけでなく、「自分たちでつくっていく」という思いを積み重ねて築いていくものです。ピー・ス・ロム・ナガサキ、長崎からみんなが平和をつくりましょ。

## 「交流のまち」は「平和のまち」

国と国との外交は、ともすれば対立的な関係になることもあります。そうしたとき、より小さな単位である都市と都市や、人と人との間で「顔の見える」交流を続けていくことはとても重要です。

相互理解や信頼は、昔から世界と交流してきた長崎の、そして長崎市民一人ひとりが持っている強みです。

さまざまな国の人と語り合うこと、身近なところでは、長崎に来た外国人観光客に道案内をすることでも、平和への道へとつながるのではないのでしょうか。



## 若い世代が平和を学び、行動を始めています

今年のNPT再検討会議に合わせて訪米した大学生の河野早杜さん（ナガサキ・ユース代表団）と溝越史恭さん（レクナサポーター）たちは、中学校での平和教育を行っています。

「核兵器の問題は、昔の話ではなく今の問題だと捉えてほしい」と語る2人。核兵器の数や核保有国の現状、ニューヨークで目にした絵や映像などを使ったさまざまな形の平和活動などについて、分かりやすく紹介していました。

年齢が近い大学生の話に親近感を感じながら、中学生も自分たちなりに「平和のために何ができるか」を真剣に考えていました。

